

SGH「アジア探求～文系」レポート5

5月24日 京都大学東南アジア研究所で研修

5月24日（土）アジア探求文系の生徒30名が京都大学東南アジア研究所にて研修を行いました。講演会場となった稲盛財団記念館(写真左)には東南アジア研究所のほか、京都大学の様々な研究組織が入っています。また、東南アジア研究所図書室(写真右)は築120年をこえるレンガ造りの落ち着いた建物です。



第一部

東南アジア研究所 岡本正明 准教授
講演「東南アジアを学ぶ～そのまなざし」

岡本先生による「基調講演」です。北野高校OB(102期)でもある先生は、研究所に入るまでのことや現在の研究関心を含めて、成長するASEAN諸国や中国の状況について、ソフトに気さくに語りかけてくださいました。

講演内容の抜粋

- ◇東南アジアを探求しようとする、成長する経済と共に、その背景にある政治を研究する必要もある
 - 「人」の肉声を聴くインタビューという手法、すなわちフィールドワークの重要性と面白さ
- ◇東南アジア諸国の日本への親近感が高い →日本のソフトパワーの影響力 ex. 音楽・映画
- ◇2050年頃の世界を想像しよう
 - 人口も経済規模も世界の50%を超えるアジア
 - 日本・アメリカ・中国などの立ち位置をリセットして考え直す必要
- ◇ASEANのこれまでとこれから
 - 戦後の東南アジアは国民統合から始まる →やがて権威主義・開発独裁へ
 - 製造業の発展に支えられる経済構造と中産階級の台頭
 - 民主化の質を問う
 - ex. 「風変わりな」選挙ポスターや選挙運動
 - 環境問題や自然災害への対応も焦点





第二部

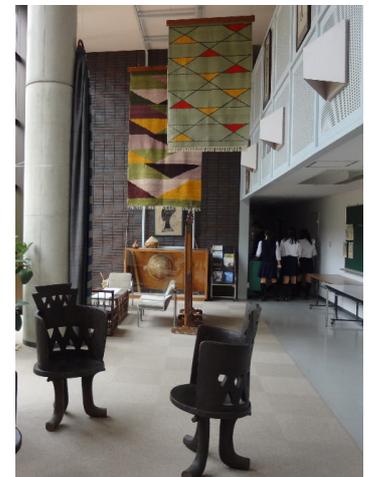
東南アジア研究所図書室長 大野美紀子 助教
東南アジア研究所院生 坂川直也 氏
講演・指導「研究所図書室の役割と資料収集」

続いて研究所図書室を見学しながら、講演・指導をいただきました。
海外拠点や研究者と連携した積極的な資料収集、外部機関ともリンクした資料検索のオンライン化によって、貴重な資料を幅広く提供できる利便性が確保されています。東南アジア各地の現地語資料や一次資料の宝庫となっており、日本十進分類とは異なる方法で、見事に分類保管されています。



大野美紀子先生のレクチャーです

建物は古いですが中は近代化されています



別棟の貴重書書庫に向かう生徒(特別に入らせていただきました)